

(開催報告)

日本側から、事業主体より、現地調査、材料試験、有識者ヒアリングなどを踏まえ検討した結果の発表*があり、検討にあたって設置された国内有識者委員会の座長でもある東京大学生産技術研究所 中埜良昭教授より、「日本における鉄筋コンクリート造建物の耐震性評価と補強」と題する講演がありました。



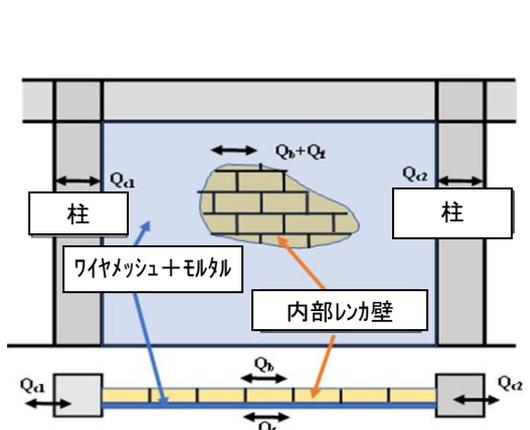
東京大学 中埜良昭教授の講演

ミャンマー側からは、MES 事務局長で、ミャンマー高層建築物品質管理委員会 (CQHP) 委員でもあるソウテゾウ氏より、「最近のヤンゴンにおける既存建物の耐震性評価」と題する発表がありました。

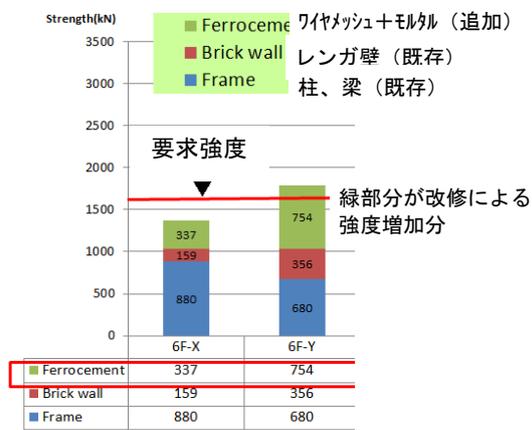
セミナーには、MES 会員及びヤンゴン市などの技術者が約 40 名、ミャンマー国建設省より、住宅分野、建築分野を担当する職員約 20 名、日本側から現地参加を含めて約 15 名の参加があり、事業主体より提案した耐震診断方法や補強方法などに高い関心が寄せられました。

意見交換では、より現地で実施しやすい診断方法、より廉価で容易に活用可能な補強方法について、引き続き検討が必要であることが確認されるとともに、大学などが推進する「防災分野研究プロジェクト」との連携、基礎的な資料の収集整理、啓発・教育が重要といった指摘がありました。

* 事業主体において、平成 17 年 10 月より、国内有識者委員会（座長：東京大学中埜良昭教授、委員：東北大学前田匡樹教授、(国研) 建築研究所及び国土交通省国土技術政策総合研究所の建築構造の専門家）の指導のもと、ヤンゴン市における建築材料の調査、性能試験、有識者からの聞き取り調査などを行い、実態を踏まえた耐震性評価を行うとともに、現地で適用性が高いと考えられるレンガ壁の補強を含めた改修方法及び改修効果の検証を行いました。



改修方法例
(既存のレンガ壁にワイヤメッシュ、モルタルによる補強)



改修の効果
(6階建住宅、X方向・Y方向の強度試算)